

第30回全国川サミット in 岡崎 共同宣言

中央アルプス南端の長野県下伊那郡大川入山から三河湾に流れる全長約118kmの一級河川矢作川は、江戸から明治にかけて三河地域の物流の動脈として舟運が発達し、流域には20余りの荷物の揚げ降ろし場が設けられるなど、三河地域の発展に大きく貢献してきました。

中でも、矢作川中流域にある支川の一つ、一級河川乙川には、「五万石でも岡崎さまは、お城下まで

船が着く」と民謡に唄われるように、岡崎城の眼下に舟運の要所として土場が設けられ、これが東海道と交わることから、岡崎城下は交通の要所として繁栄してきました。

かわまちづくり事業による河川空間の活用が、まちの新しい風景としてまちの魅力を高め、まちの賑わいを創り出すと共に、川がつなぐ上下流の地域の営みや、川がもたらす豊かな資源を守り、活かす活動に関わる「川の関係人口」を耕してい

くことを実感しています。

「第30回全国川サミットin岡崎」は、徳川家康生誕の地、岡崎市を会場に、「河川空間とまち空間の融合—川の歴史の継承と新たな交流を目指して—」をテーマとして開催しました。

今も昔も、流域に住む人々に恵みをもたらし続ける川の大切さを再認識するとともに、次世代に向けてより良い川との共生を図っていくことを誓い、ここに宣言します。

- わたしたちは、先人が築いた、恵みをもたらす川の歴史や文化を守り、次世代へ引き継いでいきます。
- わたしたちは、災害から命や大切なものを守るため、防災への意識を高め、災害に強いまちづくりに取り組みます。
- わたしたちは、川とのふれあいを通して、ひとりひとりが川に興味を持ち、大切に守ることで、川を愛する豊かな心を育みます。
- わたしたちは、川と共存した美しいまちなみと、多種多様な生き物が生息する豊かな自然環境の保全に努めます。
- わたしたちは、人と人とのつながりを大切にし、自治体の境を越えて、川に関わる人々の交流の輪を広げます。

令和4年11月5日 第30回全国川サミットin岡崎 参加者一同